

事務事業名	ワークショップフェスタ・子ども美術館開催事業				担当	教育委員会 文化課 文化振興係					
政策名	1	「人づくり」～豊かなこころアップ!～				☐ 総重（総合計画重点事業）	☐ 総新（総合計画新規事業）				
施策名	7	文化芸術の振興と文化財の保護・継承				☐ 戦拡（総合戦略拡充事業）	☐ 戦新（総合戦略新規事業）				
関連個別計画					事業期間	☐ 単年度のみ					
法令根拠						☒ 毎年度実施（開始年度 令和3 年度～）					
予算科目	1.一般会計	10.教育費	4	7		☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）					
予算科目											
予算科目											
事業概要	・美術評論家久保貞次郎氏の提唱した「創造美育」の子ども中心主義の理念を継承する芳賀教育美術展との関連企画であり、本市の特色ある美術教育の取り組みを発信するとともに、子どもたちが美術に親しみ、文化芸術への関心を高めることを目的としている。 ・幼児から中学生を対象に、自由に創作活動を行うワークショップフェスタ・子どもが独自の視点で作品を鑑賞した上でキャプション制作、（もおか子ども美術館内での）ギャラリートークなど美術館の仕事を体験する子ども学芸員・ワークショップフェスタで制作した作品やキャプションを美術館へ展示するもおか子ども美術館を一連の事業として実施している。										

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動）					④活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
5年度実績 ・9月24日（日）「ワークショップフェスタつくろう! 描こう! みんなの久保アトリエ」 ・9月24日（日）「子ども学芸員」応募作品の鑑賞・キャプション制作 ・10月26日（木）～11月26日（日）「もおか子ども美術館」（12日子ども学芸員のギャラリートーク） ・12月13日（水）～26日（木） 市役所1階ロビー作品の一部、事業の実施内容のパネル等を展示 ・芳賀教育美術展関連企画として事業の相互周知 6年度計画 ・ワークショップフェスタと子ども学芸員作品鑑賞会会場を久保講堂とする。					名称	単位	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(見込)	
					ア	ワークショップフェスタ開催日数			1	1	1	1
					イ	子ども学芸員活動回数			1	2	2	2
					ウ	もおか子ども美術館会期日数			47	28	29	37
					エ							
					オ							
					② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等					⑤対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移		
・幼児から中学生					名称	単位	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(見込)	
					ア	3歳～中学生		9,587	9,411	9,229	8,998	8,962
					イ							
					ウ							
					エ							
					オ							
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか）					⑥成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
・美術や創作活動に親しみ文化芸術への関心を高める。					名称	単位	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(見込)	
					ア	ワークショップフェスタ参加申込者数			30	49	33	40
					イ	子ども学芸員への申込者数			6	8	6	10
					ウ	もおか子ども美術館会期中1日当たりの入館者数			32.8	33.7	47.4	50
					エ							
					オ							
(2) 総事業費の推移					単位	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(見込)		
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0			
			県支出金	千円	0	0	0	0	0			
			地方債	千円	0	0	0	0	0			
			その他	千円	0	0	0	0	0			
			一般財源	千円	0	267	227	287	370			
	事業費計（A）			千円	0	267	227	287	370			

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 市の政策体系に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当か？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) 本事業は幼児から中学生までの子供たちによる美術創作や学芸員体験を主たる内容とする事業であり、施策体系の文化芸術活動の推進の一環として位置づけられる。
	②公共関与の妥当性 市が事業に関与する必要があるか？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) 幼児から中学生までの子供たちによる美術創作や学芸員体験を主たる内容とすることに加え、創作した作品を展示し、一般市民に鑑賞の機会を提供する本事業は、施策のうち「市民誰もが文化芸術に親しむ機会の拡充」に資するものであるため、市の事業として妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・1枚目の②「対象」③「意図」は適切か？ ・対象を限定・追加する必要があるか？ ・意図を限定・追加する必要があるか？	☒ 対象・意図を見直す必要はない ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある (評価理由) 本事業は久保貞次郎氏の提唱した「創造美育」の理念を引き継ぐものであるため、対象が子供であるのは妥当である。また、子供たちの文化芸術への関心を高めることにより、文化芸術の担い手育成が期待できるので、意図も適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるかどうか？ない場合の理由は適切か？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地はない ☒ 向上余地がある (評価理由) 子ども学芸員申込者数を増やす等、向上余地はある。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 ・類似事業はないか、統合や連携はできないか？	☐ 類似事業と統合・連携ができる(類似の事務事業名：) ☐ 類似事業と統合・連携できない(類似の事務事業名：) ☒ 類似事業はない (評価理由)
効率性評価	⑥事業費の削減余地 ・成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできないか？ ・実施方法の適正化によりコスト削減をできないか？	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある (評価理由) 必要最小限の経費で実施しており、事業費の削減余地はない。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） ☐ 廃止 ☒ 見直し（ ☐：目的妥当性 ☒：有効性 ☐：効率性） ☐ 統合 ☐ 継続 子ども学芸員については更に周知方法を拡充するなどPRに努める。	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td style="background: repeating-linear-gradient(45deg, transparent, transparent 2px, black 2px, black 4px);"></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td style="background: repeating-linear-gradient(-45deg, transparent, transparent 2px, black 2px, black 4px);"></td> <td style="background: repeating-linear-gradient(-45deg, transparent, transparent 2px, black 2px, black 4px);"></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持																					
	低下																					
(2) 課題、課題の克服の方向性 子ども学芸員活動は、夏休み期間中に開催時期を変更しミニワークショップも併せて実施して参加者増加を図る。 また、更に周知方法を拡充するなどPRに努める。																						

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足(説明責任不充分) ☐ 評価内容が客観性を欠く ☒ 評価内容は客観的と言える		(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td style="border: 1px solid black;"></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td style="border: 1px solid black;"></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
					コスト																		
		削減	維持	増加																			
成果	向上		○																				
	維持																						
	低下																						
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☒ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他 2次評価会議で指摘された事項 更にPRに努め子ども学芸員の参加者増を図る。																					